

現職教師によるディスプレイ型ポートフォリオの評価活動

浅井 和 行 ・ 大 隅 紀 和

(京都教育大学)

The Assessment Activities of Display Type Portfolio by Teachers

Kazuyuki ASAI ・ Norikazu OSUMI

2001年11月30日受理

抄録：現職教師にポートフォリオ評価を行う意味を考えさせるために、大学コンソーシアム京都で行なわれた学部生向け「国際教育協力論」において作成されたポートフォリオ作品を3つの観点で5段階評価させた。ポートフォリオ評価が作品分析ではなく学習内容全体の評価のためのものであることが確認でき、評価を考える上でよい経験ができたと現職教師が述べた。

キーワード：ディスプレイ型ポートフォリオ，教育評価，教師教育，国際協力

1. 研究の背景

今，教育現場は教育改革の渦中にある。「総合的な学習の時間」がその代表であろう。これまで教師は，退職直前の校長の中には昭和20年代のコアカリキュラムの経験者もいるものの，伝統的な行動主義的教育観のもとで育ち教えてきた。学生時代も講義中心の教育を受けてきた。

ところが今求められているのは，新しい構成主義的教育観に基づく教育である。教師は教育を受けたことが無く，教えたことも無い考え方によって教えることを求められているのである。

「総合的な学習の時間」に対する取り組みには，子どもが学ぶのだからということで，学習課題を設定できず，学習方法も身につけていない児童・生徒を放任している例が見られる。また，子ども中心の考え方の中で専門職としての教師の授業技術が軽んじられ，心を打つ授業が減ってきているのではないかとも思われる。

評価においても同じようなことが言える。教育現場では，目的と方法が曖昧なまま新しい取り組みを始めようとしている。

そこで，アセスメント評価としてのポートフォリオに焦点を当て，その評価方法を検討することにした。

2. 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

現職教員にディスプレイ型ポートフォリオの評価を体験させ，ポートフォリオ評価を行う意味を考えさせる。

(2) 調査対象者

I 市教育研究所（小学校教諭13名，中学校教諭12名，研究所員1名，計26名）

K 市立 K 中学校（中学校教諭19名）

Y 市教育研究所（小学校教諭18名，中学校教諭2名，計20名）

著者らのうち大隅が計3回，65名を対象に調査を行ったが，中学校教諭の結果の検討は次回に譲ることにし，本稿では，小学校教諭の結果を検討することにした。小学校教諭31名のうち未記入箇所のあった4名，記入が3ヶ所に指定されているのにそれ以上記入した2名，記入方法が数字に指定されているにも関わらず○をつけた1名，全部5をつけた1名を除く23名を対象者とした。

(3) 使用調査材料

著者らのうちの一人，大隅が大学コンソーシアム京都で行った「国際教育協力論」の授業で学部学生に作成さ

せたポートフォリオ5事例

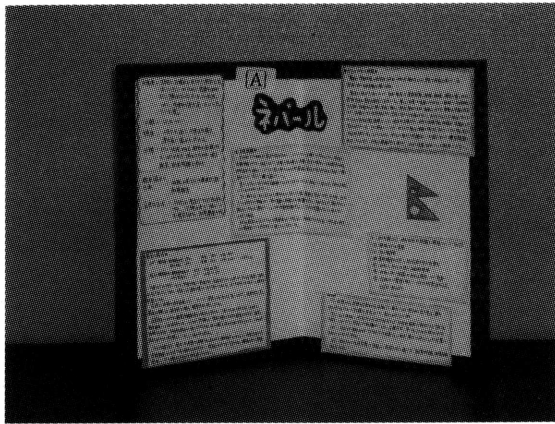


写真1 学生による作品事例 A

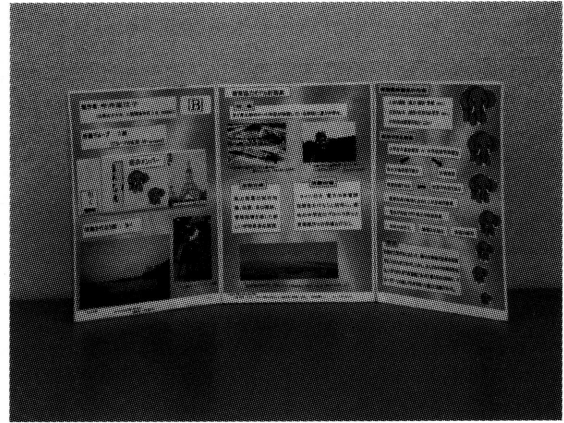


写真2 学生による作品事例 B

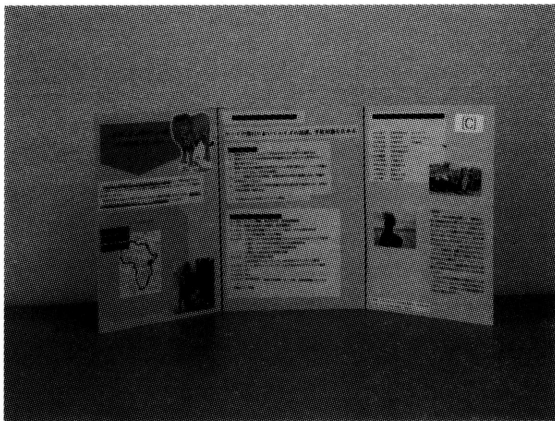


写真3 学生による作品事例 C

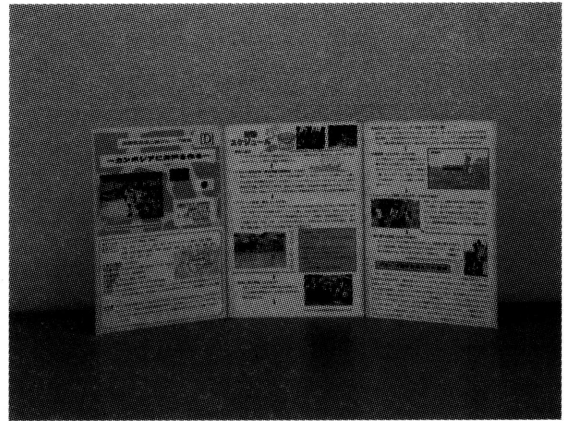


写真4 学生による作品事例 D

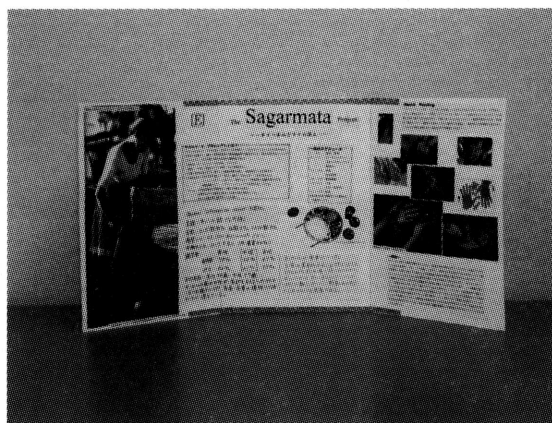


写真5 学生による作品事例 E

(4) 調査の方法

文末に示す<調査シート>の手順に従い、ポートフォリオ作品を3つの観点で5段階に評価させた。そして、評価作業の感想・意見を自由に記述させた。(所用時間約10分)

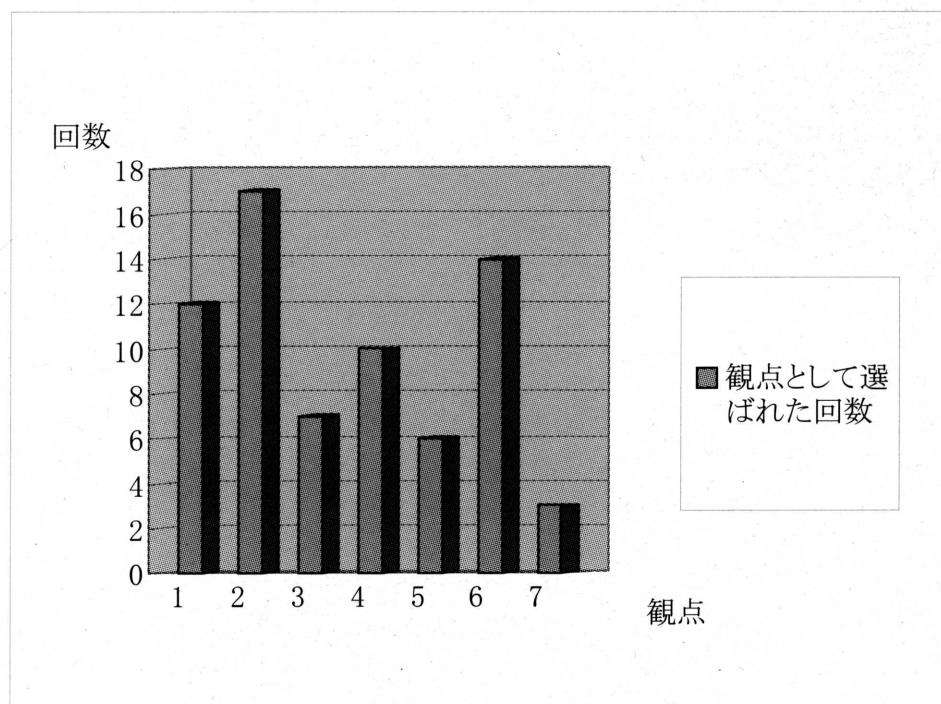
3. 結果と考察

(1) ディスプレイ型ポートフォリオ5事例の平均得点

表1 事例の平均得点

観 点	事例 A	事例 B	事例 C	事例 D	事例 E
1. 全体的な仕上がり	3.4	4.1	3.7	4.1	3.8
2. わかりやすさ	3.1	3.9	3.7	4.2	3.7
3. 魅力性	3.3	3.9	2.9	3.7	4.0
4. 資料性	3.7	3.0	3.0	4.1	3.4
5. 独自性	2.8	3.7	3.3	4.0	3.3
6. レイアウト	2.9	4.4	3.6	4.4	4.0
7. 丁寧さ	3.3	4.3	4.0	4.3	3.7
8.					
9.					
10.					
全体	3.2	3.9	3.5	4.1	3.7

(2) 観点



グラフ1 3つの観点として選ばれた回数

(3) 評価の難しさ

結果的には、事例間の評価得点の差はあまり出なかった。理由は、5つの事例に選ばれたポートフォリオ作品は、見本として見せるにはよい作品であったが、評価の体験に使うものとしては質がそろい過ぎていたのではな

いかと考えた。現職教師が5段階評価をする時には、1をつけたがらないという傾向があるということも分かった。

(4) 現職教師が望ましいと考えた観点

今回の調査では、1. 全体的な仕上がり、2. わかりやすさ、6. レイアウト等ポートフォリオを一つの作品として見る観点が多く選ばれた。しかし、評価が難しかったという意見も多く、「評価作業の感想、意見」のところで現職教師が「目的と授業の内容がよく分からなかった。」と述べているように、ポートフォリオは作品として個別に存在するものではなく、学習活動の中での学習者の成長の過程を写し出す鏡のようなものであり、指導者・支援者と学習者の対話において評価を行う時の資料として使うものであるということが確認できた。

大隅(2001)は、「国際教育協力論」の授業のねらいを「日本から世界に向けた教育協力のための基本的な知識と、これまでの取組を検討しながら、より望ましい教育協力のあり方を考える」ことであるとテキストの中で述べている。^[1] そうであるのなら、評価の観点は、学生の作ったポートフォリオが今後の教育協力のあり方について提案できているかどうかということであるべきなのではないかと考えた。

(5) 現職教師の気づき

評価作業の感想・意見の中に、ポートフォリオ評価は作品分析ではなく学習内容全体の評価のためのものであることが分かったと評価シートに書いた現職教師が複数いた。また、評価を考える上で、よい経験ができたと述べた現職教師もいた。

(6) 調査シートへの答え方のふざろいの問題

校内研修会や教育研究所主催の研修会の最後のところで調査を行った。時間は10分程度とることを説明してから調査シートへの書き込みを行ってもらったが、設問通り答えたものは少なかった。現職教師が設問に正確に答えられなかったのは、常に時間に追われていることと、日常的に文章をゆっくり正確に読むということができない程忙しいということが考えられる。

4. 今後の課題

(1) ポートフォリオの評価における二つの側面

今回の調査では、ポートフォリオの作品としての評価と、ポートフォリオをもとにした学習全体の評価という二つの側面において整理しきれていない部分があった。今後は、学習全体のねらいから育てたい力を絞り、評価もその観点に絞って行いたい。

(2) 個人評価とグループ評価

今回のポートフォリオは、グループで学んだことを個人でまとめたものであった。部分的に個人の関わり具合が明瞭でないところもあったので、個人ポートフォリオとグループポートフォリオのすみ分けについても考えていきたい。

(3) 評価基準の問題

今回は、絶対評価を加味した相対評価の5段階で評価を試みてもらった。しかし、ポートフォリオは、一斉に同じことを学習して評価するもの(evaluation)ではなく、個人が個性的に行った学習の成果を個人が再構成したゴールフリーの活動の評価(assessment)であるので、量的ではなく質的な評価方法を考えていかなければならない。

(4) 自作によるポートフォリオを使つての評価活動

現職教師にポートフォリオを制作させ、振り返らせる活動は、すでに行っているが^[2]、自作によるポートフォリオを使つての評価活動については、今後取り組んでいきたいと考えている。

【引用文献】

[1] 大隅紀和(2001)「国際教育協力論」テキスト、p.2

[2] 浅井和行、大隅紀和(2001)「新しい教育課題に対応するための教師による情報の組織化に関する研究」教育情報研究、第17巻第1号、pp.3-10

【参考文献】

- ・浅井和行（2001）「メディア教育と生活科・総合的学習」日本文教出版
- ・浅井和行編，大隅紀和監修（2002 刊行予定）「インターネットと総合学習」黎明書房
- ・大隅紀和（2000）「総合学習のポートフォリオと評価」黎明書房
- ・寺西和子（2001）「総合的学習の評価」明治図書

※ 本研究の一部は，平成 13 年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究 A（2）『マルチメディアによる複数の大学向け「国際教育協力論」の実施と評価研究』（研究代表者，大隅紀和）によるものである。

<調査シート>

____年 ____月 ____日

ポートフォリオ作品例の評価—検討材料

所属 _____ 氏名 _____ 男女 ____ 年齢 ____ 才 ____
 （男女どちらかに○をつけて下さい）

ポートフォリオ作品が A, B, C, D の 5 例あります。これらを 3 つの観点で評価していただきます。観点は，次の表の観点から 3 つ選び，番号に○をつけて下さい。表の観点より適切な観点が思い浮かべば，それを記入しそれに○をつけて合計 3 つになるようにして下さい。

評価は 5 段階で 5 を一番優れているものとし，必ず 5 例に 5, 4, 3, 2, 1 のいずれかの点を一つずつつけて下さい。

観 点	事例 A	事例 B	事例 C	事例 D	事例 E
1. 全体的な仕上がり					
2. わかりやすさ					
3. 魅力性					
4. 資料性					
5. 独自性					
6. レイアウト					
7. 丁寧さ					
8.					
9.					
10.					
合計					

この評価作業の感想，意見を自由に記述してください。
